

2024年1月

関係者各位

独立行政法人国立科学博物館 標本資料センター
神保 宇嗣

第42回自然史標本データ整備事業による標本情報の発信に関する研究会の開催について（案内）

平素より、自然史標本データ整備事業につきまして、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、第42回自然史標本データ整備事業による標本情報の発信に関する研究会を、兵庫県立人と自然の博物館（兵庫県三田市）において、下記のとおり対面の実習として開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

参加を希望される方は、2月8日（木）までに下記の事前申込みフォームよりお申込みください。今回、実習のため参加人数には限りがございますので、お申込み受付は先着順とし、定員になり次第、締め切らせていただきますことをご了承ください。

また、事業協力者の皆様に参加される際には、可能な限り旅費を支給させていただきます（各館1名のみ、先着順にて予算の上限に達し次第終了いたします）。旅費の補助を希望される方は、事前申込みフォームのチェックボタンにてご回答ください。

記

日時：2024年3月2日（土）13時30分～16時30分

場所：兵庫県立人と自然の博物館 大セミナー室

（〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目 <http://www.hitohaku.jp/>）

主催：国立科学博物館

協力：西日本自然史系博物館ネットワーク（予定）

申込み締切：2024年2月8日（木）24時

申込みフォーム：<https://forms.gle/9H9aN8MGZoQC2dzZA>

備考：定員20名。

Wi-Fiに接続できるパソコンの持参してください。WinでもMacでもかまいません。

事前にQGISをダウンロードしていただいておりますとスムーズです。

入館料として別途200円が必要になります。

今回の研究会は、S-Net参加機関の関係者を優先させていただきます。

プログラムは別紙をご覧ください。

本件に関する連絡先

国立科学博物館（S-Net/GBIF担当）

神保宇嗣・太田藍乃・柿添翔太郎・江守知保

電話：029-853-8277 E-mail: s-net_info@kahaku.go.jp

第 42 回 自然史標本情報発信に関する研究会

—GIS を用いた標本の地理情報の活用—

サイエンスミュージアムネット(S-Net)では、参加機関の皆様から提供いただいたデータを S-Net や GBIF、ジャパンサーチ等を通じて公開しています。現在公開されているデータは 730 万件を突破し、どのような標本がどの博物館にあるかを調べるだけでなく、標本データに付随する採集日時や採集地の情報は学術研究や生物多様性保全等にも活用されています。

標本データを活用する際には、分布図のように、それを理解しやすい形で視覚化することが大きな助けになります。そこで今回は、標本データがもつ地理情報のさらなる活用を目的とした研究会を実習形式で実施いたします。具体的には、GBIF データをダウンロードして、フリーの地理情報ソフトである QGIS を使用して地図上にデータを表示し、分布図を作成する方法を学びます。シンプルな白地図の背景、地理院地図や標高データの背景、さらには植生図との重ね合わせ方について、実習形式で学びます。地理情報システムの基礎的な知識と技術について、はじめての方でも美しい地図を作成することが可能となります。さらに、これらのスキルは論文や展示など、様々な場面で活用することができます。

本研究会は、新型コロナウイルス感染症流行後初の対面方式での開催となります。感染対策に留意しつつ、参加者の皆様同士で積極的な情報交換ができる場にしたいと考えております。

講師：

神保宇嗣・太田藍乃（国立科学博物館 標本資料センター）

三橋弘宗（兵庫県立 人と自然の博物館）

内容（プログラム）：

- 1) 諸注意・趣旨説明【神保】
- 2) イントロダクション「データ準備・発信における S-Net や GBIF システムの活用」【太田】
- 3) 実習「QGIS を用いた GBIF データの可視化と環境情報のオーバーレイ」【三橋】
- 4) 意見交換

ご参加いただくには、事前の申込みが必要です。

以下のサイトよりお申し込みいただけますと幸いです。

申込み締め切り：2024 年 2 月 8 日（木）24 時

申込みフォーム：<https://forms.gle/9H9aN8MGZoQC2dzZA>

備考：定員は 20 名とさせていただきます。